

発掘調査からみた 『江戸の街道と宿場』



「木曾街道板橋之驛」天保年間 板橋区立郷土資料館蔵

日時：平成27年1月11日（日・祝）午前10時から 受付開始9時30分

場所：都民ホール（東京都庁議会棟1階）
JR「新宿駅」西口から徒歩10分
都営大江戸線都庁前駅 A3 出口から徒歩1分
参加：無料 事前申込み制 270名
（応募者多数の場合は抽選）

応募方法：往復はがきで氏名・住所・電話番号
を明記して下記までお申してください。

〒206-0033

東京都多摩市落合一丁目14番2

東京都埋蔵文化財センター公開セミナー係

お問合先電話番号：042-374-8044

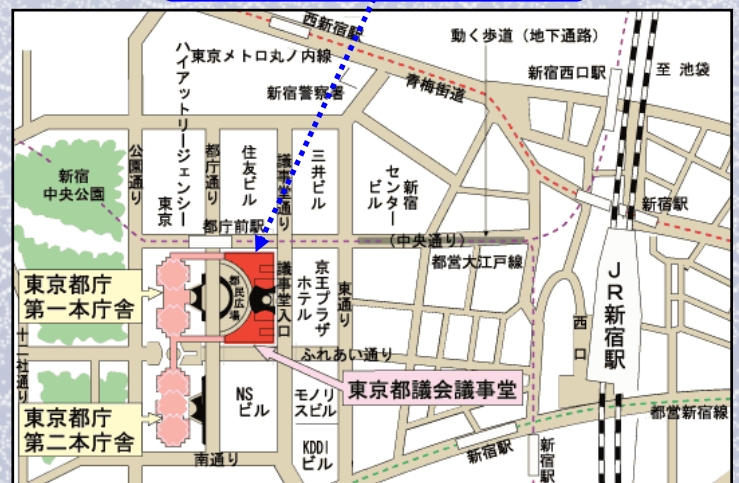
申込締切：平成26年12月15日（月）必着

*お預かりした個人情報は、本公開セミナーのご案内に
のみ利用させていただきます。

主催：公益財団法人東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センター

共催：東京都教育委員会、公益財団法人かながわ考古学財団、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

*当日は北側入口からの入場と
なりますのでご注意ください。



裏面もご覧ください。

開催にあたって

この公開セミナーは、東京・神奈川・埼玉の埋蔵文化財関係財団の連携事業として、平成20年度から毎年持ち回りで開催しており、今年度で7回目を迎えました。三都県の財団が行なった発掘調査事例とそれに基づく研究成果を発表することにより、埋蔵文化財関係財団の役割や業務について皆様のご理解を深めていただくことを目的としております。

今回取り扱う時代は江戸時代とし、特に三都県に共通して発掘調査事例が存在する街道と宿場をテーマにしました。徳川幕府は全国支配を強固なものとするため、江戸から各地に通じる街道として、東海道、中山道、日光街道、奥州街道、甲州街道の五街道を整備し、各街道にはある程度の間隔で宿場を設けました。これらの街道や宿場は人々の交通と宿泊の便に役立ったのみでなく、多くの情報や物資の伝達路や拠点としての役割も果たし、その結果、江戸のみでなく、地方都市の発達にも大きな影響を与えたと考えられています。

街道と宿場の歴史を知るための文献資料は現在、各所に残されていますが、江戸時代の街道や宿場に関わる発掘調査事例や研究成果は、三都県を通じてもまだ発展途上にあります。しかし、近年は発掘調査による成果の数が増え、今後、歴史的情報を提供してくれる可能性が大きくなってきております。発掘調査から新たに何がわかるのか、という今後の課題を探る意味でも今回の公開セミナーを有意義なものにしたいと考えております。

[開催日程]

10:00~10:10 開会・挨拶 阿部義博（公益財団法人東京都スポーツ文化事業団常務理事
東京都埋蔵文化財センター所長）

10:10~10:30 趣旨説明 内野 正（公益財団法人東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センター）

[基調報告・記念講演]

10:30~11:10 基調報告1 「日光道中と栗橋宿」
栗岡 潤（公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団）

11:10~11:50 基調報告2 「東海道沿いと大山道沿いの村一原宿町遺跡、上粕屋・石倉中遺跡」
木村吉行・天野賢一（公益財団法人かながわ考古学財団）

11:50~13:00 昼休憩

13:00~13:40 基調報告3 「発掘調査の成果から見えた中山道板橋宿の一様相」
西山博章（公益財団法人東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センター）

13:40~14:40 記念講演 「天下の総城下町一人とモノの集積地江戸の考古学一」
古泉 弘（江戸遺跡研究会世話人代表）

14:40~14:50 休憩

[シンポジウム]

14:50~16:00 シンポジウム「江戸の街道と宿場」

16:05 閉会挨拶 工藤重定（公益財団法人東京都スポーツ文化事業団
東京都埋蔵文化財センター調査研究部長）